

# 新潟市歴史資料だより

発行 新潟市歴史文化課 歴史資料整備室

平成27年 4月 1日

第 20 号

## 資料紹介

### 坂井輪村消防組の活躍と「纏」 ～坂井輪村連絡所文書より～

昨年末、西区からの依頼で、旧区役所内から発見された消防団の纏を調査しました（写真1）。この纏は高さ約2.4メートル、幅約64センチメートルで、纏の下部には馬簾ばれんと呼ばれる房が20本以上付いていました。纏の頭には消防マーク、首の部分には「新西十」とあります。これは新潟市西消防団の第10分団という意味で、昭和29（1954）年の新潟市との合併後に旧坂井輪村に付されたものです。馬簾は細いもののほかに、幅2寸（約6センチメートル）×長さ3尺3寸（約99センチメートル）の金色で革製の馬簾が2本あります。これは特別に使用を許可された金馬簾きんばれんと呼ばれるもので、裏の銘文から昭和9年と同12年に財団法人新潟県消防義会から坂井輪村消防組に贈られたことがわかります。つまり、この纏は戦前から使われてきた旧坂井輪村の消防団のものでした。

坂井輪村は現在の西区役所付近を中心に、西川の自然堤防と砂丘に立地し、明治34（1901）年から昭和29年の新潟市合併までであった自治体です。坂井輪

村連絡所文書は明治から昭和30年代の公文書で、その中の「消防書類」（資料No.N12-551）に、この金馬簾使用を裏付ける文書がありました（写真2）。昭和8年5月の火災で、黒埼村まで出張して消火活動に活躍した功績により、金色の馬簾の使用が認められたのです。

坂井輪村では、明治35年頃から各旧村内で雲竜水りゅうど（竜吐水）という押し上げ式の消火ポンプを設置し、私設消防組ができました。その中で新通消防組は大正5（1916）年に率先して公設消防組を組織し、その模範的な活動から県知事からの表彰も受けました。

その後、坂井輪村の旧村々では私設消防組を公設消防組に改組すべく村議会に提議し、昭和3年4月坂井輪村消防組が成立しました。組員は424人という西蒲原郡随一の規模を誇りました。坂井輪村の消防組は、消火・防火のほか、警備や消防施設等の改善などに率先して取り組み、幾度も表彰をされる活動をしていたのです。

坂井輪村消防組は、昭和14年には警防団と改称して戦時下における村の国防を担い、戦後は自治消防団となったのち、昭和29年の合併により、新潟市の消防団の一員となりました（資料No.N12-560・575など）。



写真1 「新西十」の纏

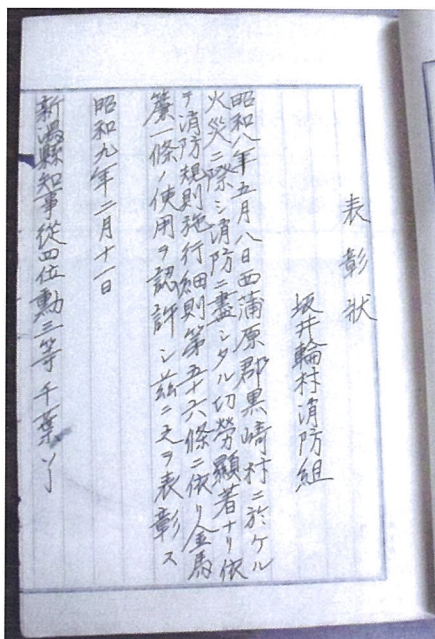


写真2 坂井輪村消防組の表彰状（写）

## 表彰状

坂井輪村消防組

昭和八年五月八日、西蒲原郡黒崎（まて）村に於ケル火災ニ際シ、消防ニ尽シタル功労顕著ナリ、依テ消防規則施行細則第五十六条ニ依リ、金馬簾一条ノ使用ヲ認許シ、茲ニ之ヲ表彰ス

昭和九年二月十一日

新潟県知事 従四位勲三等 千葉 葉

## 平成26年度事業概要

今年度も多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

### ■資料の公開

歴史資料整備室では、古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。今年度の一般利用状況は次のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	62	49	146	16	18	291
複写	60	41	124	14	31	270
掲載	6	0	12	1	27	46
計	128	90	282	31	76	607

(平成27年3月31日現在)

### ■資料の調査・収集

#### ①歴史資料所在調査

市内の民間や組織が所蔵している歴史資料の現状確認調査を行っています。今年度は中央区（6か所）・東区（4か所）・西区（5か所）・西蒲区（1か所）・江南区（4か所）・秋葉区（3か所）・北区（1か所）・南区（1か所）で調査しました。

#### ②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課等の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。今年度は1,429点（紙文書1,051点、電子文書378点）、文書箱にして94箱を引き継ぎました。

### ■資料の整理・保存

#### ①歴史資料の整理

市へ寄贈された歴史資料の整理・目録作成を行っています。今年度の整理状況は次のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
長岡市 諸橋家資料	寄贈	18	新潟地震の写真
東区津島屋区有文書	寄贈	505	近世～近代地域資料
南区西笠巻新田更正図	寄贈	23	大正4年作成更正図
西区中野小屋 椎谷家文書	寄贈	168	近代地域資料
中央区上大川前通 飯山家文書	寄贈	263	近代海運・貿易資料
西蒲区六分 山田家文書	寄贈	2,839	近世～近代地域資料
中央区紫竹山 松尾家文書	寄贈	3,526	近世～近代地域資料
中央区関屋本村町 山崎家資料	寄贈	12	新潟地震などの写真
南区月潟 小林家文書	寄贈	25	近世～近代地域資料

#### ②歴史資料のマイクロフィルム撮影と複製本の作成

歴史資料のマイクロフィルム撮影及びデジタル化と、焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルム本数は23本、作成した複製本は次のとおりです。

・豊栄市役所（岡方支所）文書（明治～昭和期）

簿冊数：149冊（デジタル化したDVD：8枚）

#### ③旧更正図・土地台帳の移管と整理

資産税課から、旧豊栄・亀田・横越・新津・小須戸・岩室・西川・巻の旧更正図・土地台帳を歴史文化課が移管を受け、横越公文書分類センターで整理・目録作成をしています。完了したのから順次公開しています。詳しくは歴史資料整備室までお問い合わせください。

### ■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

9月6・13・20・27日に、新潟市万代市民会館で、歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、毎回100名を超える多くの方々からご参加いただきました。各回の講義名と講師は次のとおりです。

日程	講義名	講師
9/6	出土文字資料からみた古代越後国の内水面交通	帝京大学 文学部講師 相澤 央
	再び白山嶋関係史料を読む～新発田重家の乱と新潟町人質事件～	歴史文化課 長谷川伸
9/13	類例のなかった長岡藩の竹林政策	新潟県立文書館嘱託員 亀井 功
	小泉蒼軒著「蒼軒日録」を読む	歴史文化課 拝野博一
9/20	世界史のなかの新潟～福沢諭吉からウラジオストックへ～	新潟大学 教育学部教授 麓 慎一
	幕末新潟町で桶の底で三人死んだ事件の資料を読む	歴史文化課 三田裕子
9/27	映像から見た新潟	新潟大学 人文学部教授 原田健一
	角海浜の毒消し行商について～和納・横山家文書を読む～	歴史文化課 熊谷重男



平成26年度歴史講座の様子

## 平成26年度歴史講座より

かくみはま  
角海浜の毒消し行商について  
～和納・横山家文書を読む～

集落跡から角海浜と日本海を望む (平成26年 7月撮影)

## ○角海浜はなぜ栄えたのか？

角海(浜)は、天正18(1590)年の城願寺文書に「かくみ浦」として登場します。元禄頃の検地で村高はわずか39石2斗、5町6反の上下畑のため、農漁業で生活できなかったのですが、当時は240戸もありました。戦後も残っていた土蔵と家財から米や藍、ろうそく、四国の石、越前の石等を交易する北前船、浦廻船による繁栄が考えられています。

明治12(1879)年の角海村の業種別人口では、大工と売薬渡世が人口の約半数を占めています。

## ○角海浜で毒消し行商がなぜ盛んになったのか？

男性の大工稼ぎと女性による干魚や塩の行商の伝統があげられます。また、毒消し行商の親方一弟子の関係に年季奉公や主従関係がないことにも理由があります。行商先においては、宿が農家の場合、子守や農作業の手伝いをして親類以上の人間関係を築きました。行商には厳しいきまりがあり、旅先で淫らなことや化粧、色恋沙汰等をしない、縄張りを荒らさないなどがありました。

毒消し薬は、原価が安く、軽量で現金売りです。従って、大工以上に稼ぎが大きく、小遣いも手に入ります。半年間、家を離れ、女性が家制度から比較的自立し、自分の存在感を得ることができました。明治43年の「預金合計帳」では、50円以上の上位23人中7人が女性となっています。

## ○角海浜の毒消し行商はなぜ衰退・消滅したのか？

明治政府は富国強兵のため、毒消し等の民間医薬

を鑑札制度や印紙税等で制限します。角海浜の毒消し行商のピークは大正年間でした。戦時体制下の経済統制と戦後の薬事法改正が、角海浜以外の地域の毒消し行商も事実上消滅させました。

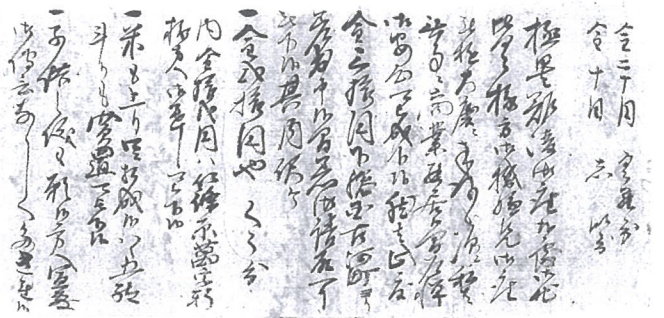
## ○角海浜はなぜ衰退・消滅したのか？

角海浜は、集落の存立そのものが危機にさらされていました。明治34年の92戸が、昭和46(1971)年には30戸に減少しています。津波と波欠け(マクリダシ)による海岸崩壊で、明治末期からの20年間で、家並み2列と道路を失っています。

何とか命脈を保っていた角海浜は、ついに消滅します。決定的な原因は、昭和10年の樋曾山<sup>ひそやま</sup>隧道の貫通にあります。川と井戸水が涸れ、当時128人であった人口が、20年後には28人に激減しています。

最後のダメ押しは、原子力発電所建設計画による土地買収です。昭和49年、最後の4戸が移転し、とうとう角海浜は無人事となりました。

## ○書状から伺える毒消し行商の一例



和納・横山家文書 (資料No若室2-798-16)

写真は、明治26年頃、横山くらという女性が、行商先から家の管理を任せていた横山文四郎宛に送った書状の一部です。大意は次のとおりです。

「30円を下総・古河町(現茨城県古河市)から送金した。そのうち20円が“くら”の分で、10円が“しい”の分である。20円の内、12円を城願寺に渡し、米を5駄くらい買ってほしい。子供の世話をお願いしている方よろしく伝えてほしい。」

同封された横山くらと山添しい連名の山添和吉(しいの父)宛の書状では、「10円を送った。子供の世話を幾重にもお願いする。」と書き送っています。

【註】横山家は、江戸時代に大(太)古屋という廻船問屋を営み、明治時代、村長等の要職を務めました。大正13(1924)年、横山家は、角海浜(浦浜村)から和納村に転居しています。毒消し行商に関する文書など、貴重な文書を所有していました。資料は平成25年度に市へ寄贈されました。

(歴史文化課非常勤嘱託 熊谷重男)

## 写真紹介

## なつかしの新潟大博覧会

昭和42（1967）年7月8日から8月31日まで、関屋松波町（中央区）裏手の砂丘地を会場として、新潟県・新潟市などの主催で「開港100年・震災復興記念新潟大博覧会」が開催されました。同年6月1日に日本海側初となる「特定重要港湾」に指定され、国際港としての期待が高まっていた新潟港と、新潟地震の甚大な被害からの復興を、国内外に紹介する絶好の機会となりました。今回掲載した写真を含め、歴史文化課には多数の記録写真が残っています。

**写真1** 博覧会会場の全景写真です。右に日本海、左に緑の松林を臨む約9万平方メートルの敷地に、21の展示特設館と、水族館、プールなどの施設が自然の地形を巧みに利用して配置されています。特設館のなかには、地方の博覧会としては初めて「ソビエト連邦館」と「アメリカ館」がそろって登場しました。

**写真2** 会場内の風景です。中央に見える48人乗りの観覧車は県内初ということもあり、乗り場付近には行列ができています。また、写真右側の9コース、50メートルプールも県下初で、プールの奥にはドーム型のテーマ館が見えます。手前に見える直径15メートルの噴水は、吹き上げる水の高さが風速によって変化するように設計されていました。

**写真3** 「のりもの科学館」わきの広場に敷設されたミニD51機関車（実物の5分の1サイズ）は、子供たちの人気の的でした。国鉄郡山工場で製作された教材用の模型機関車は精巧そのもので、運転手は国鉄機関士OBでした。

連日の猛暑に加え、会期末の8月28日には羽越水害が発生しましたが、博覧会の観覧入場者数は123万人を超えました。閉幕後も上記のプール・噴水のほか、水族館も永久施設として残され、跡地はその後、西海岸公園として整備されました。水族館は平成2（1990）年に閉館し、現在の「マリニピア日本海」に新築移転しました。

## 市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、教えてください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。



写真1 新潟大博覧会会場の全景



写真2 会場内の風景



写真3 ミニ機関車と子供たち

編集・発行 新潟市文化スポーツ部  
歴史文化課 歴史資料整備室

〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425番地9  
TEL 025-226-2584  
FAX 025-230-0412  
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp